

令和7年度

横浜市立大学大学院医学研究科
医科学専攻博士課程

学位審査資料 作成の手引き

甲・乙共通

令和7年3月改訂版

横浜市立大学大学院医学研究科

目次

1. 学位論文と学位研究報告書について	1
(1) 学位論文	
(2) 学位研究報告書	
2. 学位論文の公表	3
(1) 学位論文のインターネットによる公表規程	
(2) 学位論文の全文の公表	
(3) 学位論文の要約の公表	
3. 学術研究倫理と著作権	4
(1) 学術研究倫理について	
(2) 著作権等の権利関係について	
(3) その他参考資料	
4. 学位審査資料の作成	6
(1) 学位論文	
(2) 学位論文の要旨	
(3) 学位論文の要約	
(4) 学位研究報告書	
1) 学位研究報告書の執筆要綱	8
2) 学位研究報告書の体裁	10
3) 学位研究報告書の目次の記載例	12
(5) 引用文献の記載方法	13
(6) 論文目録の記載方法	16
5. 付録 各表紙等の記載例	17
(1) 学位論文 表紙	
(2)-1) 学位論文の要旨 表紙	
(2)-2) 学位論文の要旨 本文	
(3)-1) 学位論文の要約 表紙	
(3)-2) 学位論文の要約 本文	
(4)-1) 学位研究報告書 表紙(和文)	
(4)-2) 学位研究報告書 表紙(英文)	
(5) 研究指導教員が所属教室以外に別にいる場合 (各審査資料表紙)	
(6) 代行指導教員がいる場合 (主任教授不在期間に提出する場合) (各審査資料表紙)	

1. 学位論文と学位研究報告書について

(1) 学位論文

1) 学位論文の条件

学位論文は査読付の国際学術雑誌に印刷公表された(もしくは印刷中の)本人を筆頭とする原著論文とします。

- ・ 投稿時点で、Clarivate Analytics 社 Web of Science の Impact Factor または Elsevier 社 Scopus の Cite Score の数値が付与されていることが求められます。
- ・ Received、Revised、Accepted までの期間が極端に短い場合、学位論文として認められない場合もあります。
- ・ 学位論文とする原著論文は、フルペーパー(original article)の論文とします。研究結果を含まない論文(プロトコール論文等)、症例報告、短報(brief report や short report)では、学位論文としては認められません。
- ・ co-first author の場合は「同意書兼誓約書」の提出が必要です。

2) 申請に必要な原著論文数(主論文・副論文)

【甲号：1本以上】

甲号の申請には、学位論文に相当する原著論文が1本以上必要です。学位論文に相当する原著論文が複数ある場合は、1本を主論文とし、その他は副論文としてください。

※副論文は、主論文の研究内容に関連するものに限ります。

【乙号：2本以上】

乙号の申請には、学位論文に相当する原著論文が2本以上必要です。1本を主論文とし、その他は副論文としてください。

※副論文は、主論文の研究内容との関連性は問いません。

※甲号・乙号いずれの場合も、副論文は主論文同様の条件(IF、CiteScore 数値、査読付き国際学術雑誌)を求めます。

※参考論文

主論文・副論文以外の原著論文、総説、著書がある場合、参考論文として論文目録に記載することができます。筆頭・共著、欧文・和文、学位論文の研究内容との関連性は問いません。

3) 原著論文の投稿先について

近年、通称「ハゲタカ出版」と呼ばれる金銭を目的とした出版社が増加傾向にあります。

「査読あり」と謳いながら、その実態は限りなく不審であり、投稿料や出版料、オープンアクセス費等の名目での金銭収集が目的と思われる雑誌や国際会議の総称です。原著論文を投稿する際には以下の事項を確認すると同時に、投稿前に指導教員とよく相談して投稿先を選んでください。

- ・雑誌名で検索して、懸念がないかを確認してください。「ハゲタカ出版」で検索し、リストに雑誌名掲載がないか、査読の体制に継続性があるかなどについて調査してください。
- ・投稿先雑誌の必須要件にもしていますが、Web of Science、または Scopus の二次資料データベースの対象雑誌となっているか確認してください。
- ・投稿から受理に至るまでの査読期間が極端に短い雑誌など、採択されやすい雑誌は、特に注意が必要です。

4) 学位論文の研究期間について

学位論文（主論文・副論文）となる原著論文の研究内容は、甲号の場合、博士課程在学中に行った研究内容としてください。（単位修得満期退学後2年以内に甲号の学位申請をする場合は、満期退学後に行った研究も含みます。）また、乙号の場合は、学位申請に必要な研究歴の期間に行った研究としてください。

5) 申請者所属先の記載について

学位論文に記載されている申請者の所属先に、本学あるいは連携大学院（後者は甲号のみ）が含まれていない場合は、事前に学務・教務担当までご相談ください。

(2) 学位研究報告書

学位研究報告書は、これまで行った研究の集大成としてまとめるものであり、学位審査を行う上で、学位論文の内容では不足する内容を補完するものです。学位論文の研究内容に関連するほかの論文を含めて記載し、研究の背景となる先行研究などについても、当該研究分野の専門家以外の人にも理解できるように、できる限り分かり易くしてください。

2. 学位論文の公表

(1) 学位論文のインターネットによる公表規程

文部科学省における学位規則の改正(平成25年4月施行)に伴い、平成25年4月1日以降に博士の学位を取得された方は、博士の学位授与に係る①「学位論文の全文」②「学位論文の要旨」③「学位論文審査の結果の要旨」をインターネットにより公表することが義務づけられました。学位を授与された日から3ヶ月以内に「学位論文の要旨」「学位論文審査の結果の要旨」を、また1年以内に「学位論文の全文」をインターネット公表する必要があります。

(2) 学位論文の全文の公表

学位論文の全文は学位授与後に※大学のリポジトリによりインターネット公表されます。

本学の医学研究科では、出版されている(出版予定の)原著論文を学位論文として取扱いますので、出版社の著作権ポリシー等により、全文のインターネット公開ができない場合には、全文に代わる学位論文の要約の作成および公表が必要となります。3)を参照してください。

※大学リポジトリのインターネット公表について

大学HP上の学術機関リポジトリで公表します。大学リポジトリのデータは国立情報学研究所に自動収集され、国立情報学研究所を経て国立国会図書館でもデータが保管されます。

投稿先の出版社によるインターネット公開とは異なりますので、ご注意ください。

原著論文がオープンアクセスになっている場合、当該のジャーナルサイトでは公表可能でも、ジャーナルサイト以外(大学リポジトリ等)で公表する場合には、公表不可の場合もあります。

よってオープンアクセスジャーナルであるか否かに関わらず、出版社に許諾を取っていただく必要があります。

(3) 学位論文の要約の公表

(2)で記載したような全文を公表できない「やむを得ない事由」がある場合は、全文に代えてその内容の要約をインターネットにより公表することになります。

※参考「やむを得ない事由」の例

- ・博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含む場合。
- ・博士論文が、著作権保護、個人情報保護等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含む場合。
- ・出版刊行、多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載、特許の申請等との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文公表により博士の学位を授与された者にとって明らかな不利益が生じる場合など。

3. 学術研究倫理と著作権

(1) 学術研究倫理について

厚生労働省において、医学研究を実施するために各種倫理指針の策定が進められています。各々の医学研究を行うにあたり、適切な倫理審査を受け、倫理指針を遵守する必要があります。

※参考資料

- ・厚生労働省 研究に関する指針について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html>

- ・日本学術振興会 研究倫理eラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics) [eL CoRE]

<https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx>

(2) 著作権等の権利関係について

学位論文(原著論文)作成時において、適正な引用方法、法令順守、権利関係に留意するとともに、博士論文の全文公表にあたっては、学位論文作成者自身が、事前に権利関係(出版社の著作権ポリシーを含む)を確認しなくてはなりません。適切な引用方法ではない、出典を明記していない、著作権ポリシーの確認ができていない等は、全文公表にあたって損害を被ることがありますので、下記チェック項目を参考の上、十分注意して論文作成にあたってください。

☐ 他の著作物からの引用方法は適正か

- ・引用するものが既に公表されているものであるか。
- ・引用部分が明確になっているか。
- ・引用部分とそれ以外の部分の「主従関係」が明確であるか。
- ・引用部分は必要最低限であるか。
- ・出所を明記しているか。

☐ 図表や写真の引用は適正か

- ・適正な引用範囲を超えると考えられる場合、著作権者から使用許諾を取っているか。

(図表や写真などは、それ自体に著作権が適用されます。引用する場合は、個別の図表ごとに適切な典拠の明示が求められます。また、場合によっては著作権者への事前の利用許諾が必要な場合がありますので、特に注意が必要です。)

☐ 研究対象者のプライバシー保護がされているか

- ・対象者が研究対象となることを了解していて、公表方法にも同意しているか。
- ・対象者の匿名性を配慮しているか。

※本文中だけでなく、謝辞の記述や共著者名などから研究対象者がわかる場合もあるので注意すること。

□ 法令や規則を遵守しているか

・研究にあたり、関連する法令や規則を遵守しているか。

※薬品や装置を使った実験→取扱規則・要領を守ること。

※国際的な共同研究→外国の法令に従うこと。

□ データ・資料等の使用権利について確認しているか

・共有のデータ、資料を用いた研究成果を、インターネットで無償公開することについて、所有者に確認をしているか。

※前任地でのデータ、共同研究者との共有データを個人で使用する場合、研究資金を負担した企業や助成機関がデータの所有権を有している場合は注意すること。

□ 著作権について許諾確認しているか

・提出前に著作権者を確認し、執筆者自身で著作権者・共著者に許諾を取っているか。

※著作権が個人(本人)にある場合、著者(本人)の判断で公開することができる。

(著作者の作成した著作物であっても、すでに公刊された著作物として引用する場合は適切な引用作法に従う。)

・共著者がいる場合、共著者全員の許諾を得ているか。

※著作権が出版社・学協会にある場合、出版社によっては、一定の条件の下で、大学などの機関リポジトリへの登録を認めているところもあるので出版社・学協会の雑誌タイトルの著作権ポリシー、投稿規定等を確認すること。

※出版社・学協会で、「著者最終版」の公開が許諾されている場合もあるので、予め論文投稿の際には著者最終版を保存しておくこと。(著者最終版とは、査読を通り雑誌に掲載される前の原稿(ポストプリント)を指す。)

(3) その他参考資料

医学雑誌編集者国際委員会(International Committee of Medical Journal Editors)

統一投稿規定

医学雑誌掲載のための学術研究の実施、報告、編集、および出版に関する勧告

(2024 年 1 月改訂版)

https://www.honyakucenter.jp/assets/pdf/ICMJE_Recommendations_2024.pdf

4. 学位審査資料の作成

(1) 学位論文

表紙（P17 参照）と論文目録（P16 参照）を作成し、「表紙+原著論文+論文目録」の順番で、まとめてください。（資格確認後、簡易製本）原著論文が印刷中の場合は、原文（著者最終原稿等）に表紙と論文目録をつけてください。また、その場合は論文の投稿から受理までの過程が証明できる資料（原著論文の Received、Revised、Accepted の日付がそれぞれ分かるメール文など）を添付してください。原著論文に上記日付の記載がない場合も、未記載の日付が分かる資料を提出してください。甲号で副論文がある場合、乙号の場合は、主論文、副論文を各 1 部ずつ提出してください。

(2) 学位論文の要旨

学位論文の内容が的確に理解できるように工夫し、IMRAD（イムラッド：Introduction/序論（背景目的）、Methods/実験材料と方法、Results/結果、Discussion/考察、結語/Conclusion）の形式で記載してください。

各項目間は 1 行空けてください。項目名は使用言語に合わせてください。

書式は、和文の場合 2,000 字程度、英文の場合 1000 words 程度。

4 方向の余白を十分（25mm～30mm 程度）にとる。文字の大きさは 10.5 ポイント。

引用文献は、厳選したものを、学位研究報告書と同様の方法で、文中と引用文献リストで示してください。

表紙（P18 参照）と論文目録（P16 参照）を作成し、「表紙+要旨内容+引用文献リスト+論文目録」の順番にまとめてください。

【甲号で副論文がある場合】

主論文・副論文の内容を 1 部にまとめて作成してください。またこの場合は論文ごとに項目立て（序論、方法、結果、考察・結語）せずに、主論文の内容を中心に統合して記載してください。

表紙に記載するタイトルは、主論文と副論文の研究内容をまとめた包括的なタイトルでかまいません。

【乙号の場合】

主論文と副論文の研究内容に関連性がある場合は、上記甲号と同様、主論文の内容を中心に 1 部に統合して記載してください。

主論文と副論文の研究内容に関係性がない場合は、主論文・副論文 それぞれの内容で各 1 部作成してください。（この場合も、審査対象は主論文となります。）

(3) 学位論文の要約（学位論文がインターネット公表できない場合、要作成）

(2) 学位論文の要旨と同様の方法で作成し、要旨の内容に、

学位論文の中から代表的な図表を 1～2 つ加えるなどし、文中の該当部分に明記してください。

図表は使用言語に合わせて作成してください。

図や表とその説明は、本文中の該当部分に挿入し、本文中の説明と図表との対応が分かるような引用を入れること。

(例) 図 1 に示すように, ……
……………を図 1 に示す
……………である. (図 1) など

※要旨、要約ともインターネットにより公表されます。特に要約に盛り込む図表は、適切な著作権処理や典拠の明示に注意してください。

※ヒト・動物を対象とした研究について

学位研究報告書同様、要旨、要約にも各施設における審査委員会の承認番号を記載してください。
詳細は、4) 学位研究報告書を参照してください。

(4) 学位研究報告書

次項以下の執筆要綱に沿って、作成してください。

1) 学位研究報告書の執筆要綱

①使用言語について

- ・和文・英文ともに可。

本文が和文の場合は表紙・図表も和文

本文が英文の場合は表紙・図表も英文

②1 ページの目安

- ・4方向の余白を十分(25mm~30mm 程度)にとる。作成前に下記の通り設定し、章ごとに改ページする。

【和文の場合】10.5pt のフォント (MS 明朝など)

行間「固定値」/間隔「20pt」

32~33 行を目安とする。1 ページあたり 1200 文字程度。

【英文の場合】12pt のフォント。(Times New Roman など)

行間 1.5 行。

24~25 行を目安とする。1 ページあたり 600~750words 程度。

③図表について

- ・図や表とその説明は、本文中の該当部分に挿入し、本文中の説明と図表との対応が分かるような引用を入れること。

(例) 図 1 に示すように、…….

………を図 1 に示す.

………である. (図 1) など

- ・図表は、「図 1、図 2、図 3…」 「表 1、表 2、表 3…」のようにそれぞれ通し番号をふり、図は下部に、表は上部にタイトル(キャプション)をつける。(通し番号は使用言語に合わせてつけること)

- ・引用図表は出典(出处)を必ず明記する。表記は引用文献の書き方に従う。

- ・自分で作成した図表であっても、元になったデータがある場合には、その出典(出处)を必ず明記する。例:「○○を元に執筆者作成」

※出典を明記しない場合は、盗用と判断されることもありますので十分注意してください。

- ・学位研究報告書を和文で作成する場合は、図表も和文で作成すること。

固有名詞として和文の中に一般に用いられているもの以外は、全て和訳してください。

図表を和訳しただけでは、引用の改変にはなりません。

- ・図表の文字がぼやけている、小さすぎる等の不鮮明な箇所がないように記載してください。不要な文字等は削除し、全ての文字、写真が鮮明に見えるように記載してください。

・考察には、他人が作成した引用としての図表は入れない。

必ず自分で作成した図表を入れること。他人が作成した図表を用いて、考察のページ数を割くことは避けてください。

④句読点について

・句読点は「,」「.」に統一する。

⑤ページ番号およびページ数について

・表紙および目次を含めず、各ページの下中央にページ番号を記載する。

考察は、図表部分を除きそれぞれ 10 ページ以上(和文 12,000 文字以上、英文 6,000words 以上)とする。

⑥印刷方法・表紙・目次について

・両面印刷とする。但し表紙と目次の裏は白紙とする。

※特許申請および学位研究報告書の記載内容について

学位審査会は公開で行われます。

特許について申請処理を済ませていないものや、投稿前やアクセプトされていない投稿中の論文の内容は、学位論文に関連する内容であっても「学位研究報告書」に盛り込まないようにしてください。特に図表は盛り込んでしまうと未発表とみなされなくなり、今後、他の論文で使用できなくなりますので注意が必要です。学位審査会の発表スライドへの記載もしくは審査会での回収資料にとどめる等の対応をお願いします。

また、「学位研究報告書」は学位審査用の書類となり、広く一般に公表するものではありませんが、学位審査会は公開で行われ、学位審査会での質疑応答のやりとりは「学位論文審査の結果の要旨」に反映されます。「学位論文審査の結果の要旨」は大学リポジトリにてインターネット公表されますので、内容の記載には十分注意してください。

※ヒト・動物を対象とした研究について

学位論文作成のためヒトを対象とした研究を実施する場合は

「臨床研究に関する倫理指針(※1)」(厚生労働省)(平成 16 年 12 月 28 日全部改正、平成 20 年 7 月 31 日全部改正)を遵守し、学位論文の要旨・要約・学位研究報告書の中に、各施設倫理審査委員会の承認番号を記載してください。

動物を対象とした研究の場合は、「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン(※2)」(日本学術会議 2006 年 6 月 1 日)を遵守し、学位論文の要旨・要約・学位研究報告書の中に、各施設における審査委員会の承認番号を記載してください。

(※1)<https://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/rinsyo/dl/shishin.pdf>

(※2)<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-20-k16-2.pdf>

2) 学位研究報告書の体裁

項目	備考
表紙 (Title)	「学位研究報告書」の記載、論文題目(括弧書きで和訳)、氏名(単名)、特別研究科目名を記載する。1 ページに収め、裏は白紙とする。(P22 の記載例参照) ※主任教授と別に研究指導教員がいる場合、医学研究科所属教室以外の研究指導教員については名前を併記してください。(P24 の記載例参照)
目次 (Contents)	裏は白紙とする。また、ページ数は各章の開始ページの数字のみ記載をし、「〇～〇」という表記や、「P」「頁」等の語句は記載しない。(P12 の記載例参照)
第 1 章 要旨 (Abstract)	要旨: (和文の場合 2,000 字程度、英文の場合 1,000 words 程度) 本文が見開きの右ページから始まるようにする。
第 2 章 序論 (背景・目的) (Introduction)	主論文および副論文の背景となる先行研究および研究目的について、専門外の人が読んでもわかるように記載する。研究の意義を含めて記載する。総論的観点から書き始め、各論に入る。
第 3 章 実験材料と方法 (Materials & Methods)	ヒトを対象にした研究の場合は、各施設倫理審査委員会の承認番号を記載すること。動物を対象とした研究の場合は、各施設における審査委員会の承認番号を記載すること。※ 本学にて付与される承認番号は、動物実験計画書の最下段にある学長承認欄に記載されている次の番号 【(F/T/H)-A-(2桁の数字)-(3桁の数字)】 【記載例】 当該実験動物を使用して実験を行うことについては、横浜市立大学動物実験委員会の審査を経て学長の承認を得ています。(承認番号: (F)-A-××-×××)
第 4 章 結果 (Results)	図や表およびその説明は、本文中の該当部分に入れ込む。後ろにまとめて入れることはしない。また和文の場合は「Figure」「Table」ではなく「図」「表」とし、図のタイトルも和文表記にする。
第 5 章 考察 (Discussion)	学位研究報告書の中心となる部分であるため、今後の研究の展望などについても記載する。内容に総論的観点を含める。 <u>分量は図表部分を除き 10 ページ(和文の場合 12,000 文字・英文の場合 6,000 words)以上作成する。</u> 考察に図表を加える場合は、申請者作成のものに限る。
第 6 章 結語 (Conclusions)	要点のまとめ、残された課題、今後の展望などについて簡潔に記載する。
謝辞 (Acknowledgement)	実験材料や資料提供および指導を受けた方々について記載する。
利益相反開示 (Conflict of Interest)	本研究に対しての利益相反開示を記載する。 【記載例】 ・この研究に対し開示すべき利益相反状況はない。 ・この研究の〇%は×××からの支援により行った。 等
引用文献 (References)	学位申請者以外の先行研究論文について、アルファベット順に記載する。著者が日本人の場合も、アルファベット順にして一覧の中に入れる。 文献ごとの番号は入れず、次の引用文献との間は一行空ける。

	(引用文献の記載法参照)
論文目録 (Publication list)	学位申請者による主論文、副論文および参考論文のリストを記載する。 共著者は全て記載する。
付録 (Appendix)	付録がある場合は、論文目録の後ろ、巻末に付ける。ページ数には含まない。※付録はなくてもよい。学位論文に関係するものに限る。

【甲号で副論文がある場合】

主論文・副論文の内容を1部にまとめて作成してください。またこの場合は論文ごとに項目立て(序論、方法、結果、考察・結語)せずに、主論文の内容を中心に統合して記載してください。

表紙に記載するタイトルは、主論文と副論文の研究内容をまとめた包括的なタイトルでかまいません。

【乙号の場合】

主論文と副論文の研究内容に関連性がある場合は、上記甲号と同様、主論文の内容を中心に1部に統合して記載してください。

主論文と副論文の研究内容に関係性がない場合は、主論文・副論文 それぞれの内容で各1部作成してください。(この場合も、審査対象は主論文となります。)

3) 学位研究報告書の目次の記載例

目次	
第1章 要旨	1
第2章 序論	3
第1節 はじめに	
第2節 大腸癌	
第3節 UGT1A1 遺伝子多型	
第4節 UGT1A1 遺伝子多型に対するこれまでの取り組み	
第5節 本研究の目的	
第3章 実験材料と方法	15
第1節 対象症例、試料	
第2節 遺伝子発現測定方法	
第3節 統計分析	
第4章 結果	30
第5章 考察	35
第6章 結語	46
謝辞	47
利益相反開示	47
引用文献	48
論文目録	51

節ごとのページ番号は記載不要

図表部分を除き、本文10ページ(12,000文字)以上

付録

※付録は学位論文に関係するものに限る。なくてもよい。ページ数には含まない。

(5) 引用文献の記載法

1) 本文中での文献の引用について（引用個所に著者名と発表年を記載する。）

① 著者名の記載例

- ・ 著者 1 名の場合:Thanos, 2005; 木村, 2008
- ・ 著者 2 名の場合:Thanos and Maniatis, 2004; 木村・加藤, 2007
- ・ 著者 3 名の場合:Thanos et al., 2006; 木村ら, 2008
- ・ 同一著者で同一発表年の場合(発表順に発表年に a, b, c, … を付けて区別する):
Thanos et al., 2005a; Thanos et al., 2005b
木村ら, 2008a; 木村ら, 2008b; 木村ら, 2008c
- ・ 同一姓の異なる著者で同一発表年の場合(名前や名前の頭文字で区別する):
Thanos, D., 2005; Thanos, M., 2005
木村太郎ら, 2008; 木村誠ら, 2008

② 引用法の記載例

- ・ 文章中に引用する場合:
Thanos et al. (2005a, 2006) によると
Thanos et al. (2006) および木村ら (2008) は
- ・ 文末に引用する場合:
～と報告されている(Thanos and Maniatis, 2004; 木村ら, 2008).
- ・ 掲載が決定している発表前の文献の記載例:
Thanos et al., in press; 木村ら, in press
- ・ HP 掲載のデータ等を引用する場合:
文責者(団体名や機関名、会社名などでも可)を本文中に記載する。

2) 引用文献欄での文献の記載について(左揃え・文献毎に 1 行あける・文献毎の付番不要。)

「,」や「.」の付け方、イタリック体(斜体)にする箇所、(括弧)で括る箇所など、細かい点においても下記に記載の通りに作成してください。

① 引用文献リストの記載順

- ・ 筆頭著者(姓、イニシャル)のアルファベット順に記載する。
- ・ 筆頭著者が同一の場合、著者数が少ない順に記載する。
- ・ 筆頭著者が同一で、かつ著者数も同一の場合、第 2 著者以降で異なる著者のアルファベット順に記載する。
- ・ 著者が同一(筆頭著者と第 2 著者以降がともに同一)の場合、発表年の順に記載する。
- ・ 著者が同一(筆頭著者と第 2 著者以降がともに同一)で、かつ発表年も同一場合、発表順に発表年に a, b, c, … を付けて区別する。
- ・ リストにおいて、和文献と欧文献は区別せず、アルファベット順に記載する。

②引用文献リストの記載法

【雑誌の場合】

著者(英文の場合は姓および名前の頭文字, 和文の場合は姓および名前), 発表年(括弧入り), 論文タイトル, 雑誌名(斜体), 巻数, ページ番号(始めと終わり)の順に記載する。ただし、雑誌名は略記で示し、欧文誌についてはMEDLINE(PubMed)、和文誌については医学中央雑誌収載誌目録(医学中央雑誌刊行会)での記載法に準拠するものとする。

記載例

欧文献の場合:

Lowenberg, B., Downing, J.R., and Burnett, A. (1999), Acute myeloid leukemia, *N Engl J Med*, 341, 1051-1062.

和文献の場合:

八木剛平, 渡邊衡一郎, 高野晴成, 田中謙二 (1999). 三世代の抗精神病薬による初発分裂病の治療経験. *日神精薬理誌* 19, 361.

【単行本の場合】

著者(英文の場合は姓および名前の頭文字, 和文の場合は姓および名前), 発行年(括弧入り), 書名(斜体), 版数, 発行所とその所在都市名, (必要があればページ番号(始めと終わり)または章番号)の順に記載する。

記載例

欧文献の場合:

Alberts, B., Johnson, A., Lewis, J., Raff, M., Roberts, K., and Walter, P. (2008), *Molecular Biology of The Cell*. 5th ed., Garland Science, New York, pp 501-578.

和文献の場合:

広瀬輝夫 (2002). *医療経営の基礎から実践までの実際*. 篠原出版新社, 東京.

【単行本の一部の場合】

著者(英文の場合は姓および名前の頭文字, 和文の場合は姓および名前), 発行年(括弧入り), 表題, 編者, 書名(斜体), 版数, 発行所とその所在都市名, ページ番号(始めと終わり)または章番号, の順に記載する。

記載例

欧文献の場合:

Mo, X., Kowenz-Leutz, E., and Leutz, A. (2004), “Myb Partnerships,” Frampton, J. (ed) *Myb Transcription Factors: Their Role in Growth, Differentiation and Disease*, Protein and Cell Regulation vol. 2, Kluwer Academic Publishers, New York, pp. 501-578.

和文献の場合：

青木宏光（2009）. “エントロピー”，青木宏光，長田俊治，橋本直文，三輪嘉尚（編著）. *物理化学大義 -事象と理論の融合-*，京都広川書店，京都，第4章.

- ・HP掲載のデータ等(ガイドライン等)を引用する場合

文責者または団体名や機関名、会社名などと URL を記載する。リストへの記載は文責者のアルファベット順とする。

記載例

横浜市立大学, available at: <http://www.yokohama-cu.ac.jp/med/kouza/130831.html>

③ハーバードスタイルの基本的なガイドライン

- ・引用事項は必ず著者の姓から始め、次にイニシャル、(括弧)で括った日付が続きます。
- ・本文の引用、引用文献における著者表示は、常に姓・名の順に倒置されます。
- ・同じ著者による複数の引用典拠がある場合は、日付順にならべます。
- ・雑誌名や図書名は、*斜体(イタリック体)*にし、重要な語句は大文字とします。
- ・図書の章やWeb上の記事タイトルなどのなどを引用した場合は、引用符(“ ”)で囲み、最初の語は大文字とする。
- ・電子参考文献は、記載の最後に URL 等を記載し、引用日の明示が必要な資料は、アクセス日を記載します。

(主論文は項目Ⅰに、副論文はⅡ、参考論文がある方はⅢに記載してください)

5 付録 各表紙等の記載例

(1) 学位論文 表紙

甲号で副論文がある方、乙号の方は
それぞれどちらかを記載

DOCTORAL THESIS

(主論文) または (副論文)

Analysis of the *UGT1A1* gene polymorphism in colorectal cancer

(大腸癌における *UGT1A1* 遺伝子多型の分析)

原著論文のタイトルを記載し
てください。

Taro Yokohama

横浜 太郎

Biochemistry

Yokohama City University Graduate School of Medicine

横浜市立大学 大学院医学研究科 医科学専攻 生化学

(Doctoral Supervisor: Ichiro Fukuura, Professor)

(指導教員: 福浦 一郎 教授)

特別研究科目名
※乙号も要記載

専攻名を記載。
乙号は記載不要。

(2)-1) 学位論文の要旨 表紙

学位論文の要旨
(主論文) または (副論文)

乙号の方で、主論文の要旨と副論文の要旨を
別々に作成する場合は、それぞれどちらかを記載

Analysis of the *UGT1A1* gene polymorphism in colorectal cancer

(大腸癌における *UGT1A1* 遺伝子多型の分析)

原著論文のタイトル。

主論文・副論文の内容を統合して作成する場合は、
研究内容を包括的に表すタイトルも可。

Taro Yokohama

横浜 太郎

Biochemistry

Yokohama City University Graduate School of Medicine

横浜市立大学 大学院医学研究科 医科学専攻 生化学

(Doctoral Supervisor: Ichiro Fukuura, Professor)

(指導教員: 福浦 一郎 教授)

特別研究科目名
※乙号も要記載

専攻名を記載。
乙号は記載不要。

(2)-2) 学位論文の要旨 本文

学位論文の要旨
(主論文) または (副論文)

Analysis of the *UGT1A1* gene polymorphism in colorectal cancer

(大腸癌における *UGT1A1* 遺伝子多型の分析)

<http://dx.doi.org/10.1016/j.ejso.2013.10.007>

※ ↑ 自身の原著論文へのリンク先 URL を記入 (出版済みの方のみ)

1. 序論

2. 実験材料と方法

3. 結果

4. 考察

5. 結語

..... (本文は 2000 字程度)

*本文の後に、引用文献をセレクトしてリストを付け、本文にわかるように明記する。

*巻末に論文目録を付ける。

(3)-1) 学位論文の要約 表紙

学位論文の要約

Analysis of the *UGT1A1* gene polymorphism in colorectal cancer

(大腸癌における *UGT1A1* 遺伝子多型の分析)

原著論文のタイトル。

主論文・副論文の内容を統合して記載する場合は、
研究内容を包括的に表すタイトルも可。

Taro Yokohama

横浜 太郎

Biochemistry

Yokohama City University Graduate School of Medicine

横浜市立大学 大学院医学研究科 医科学専攻 生化学

(Doctoral Supervisor: Ichiro Fukuura, Professor)

(指導教員:福浦 一郎 教授)

特別研究科目名
※乙号も要記載。

専攻名を記載。
乙号は記載不要。

(3)-2) 学位論文の要約 本文

学位論文の要約

Analysis of the *UGT1A1* gene polymorphism in colorectal cancer

(大腸癌における *UGT1A1* 遺伝子多型の分析)

<http://dx.doi.org/10.1016/j.ejso.2013.10.007>

※ ↑ 自身の原著論文へのリンク先 URL を記入 (出版済みの方のみ)

1. 序論

2. 実験材料と方法

3. 結果

4. 考察

5. 結語

..... (本文は 2000 字程度)

*内容は「学位論文の要旨」と同じでよい。

*学位論文の中から代表的な図表を 1～2 個入れる。図表は使用言語に合わせて作成

*本文の後に、引用文献をセレクトしてリストを付け、本文にわかるように明記する。

*巻末に論文目録を付ける。

学位研究報告書

(主論文) または (副論文)

乙号の方で、主論文の研究報告書と
副論文の研究報告書を別々に作成する場合は、
それぞれどちらかを記載

大腸癌における *UGT1A1* 遺伝子多型の分析

原著論文のタイトル (和訳)。
主論文・副論文の内容を統合して記載する場合は、
研究内容を包括的に表すタイトルも可。

横 浜 太 郎

特別研究科目名
※乙号も要記載。

横浜市立大学 大学院医学研究科 医科学専攻 生化学

(指導教員:福浦 一郎 教授)

専攻名を記載。
乙号は記載不要。

学位研究報告書

(主論文) または (副論文)

Analysis of the *UGT1A1* gene polymorphism in colorectal cancer

(大腸癌における *UGT1A1* 遺伝子多型の分析)

Taro Yokohama

Biochemistry

Yokohama City University Graduate School of Medicine

(Doctoral Supervisor Adviser: Ichiro Fukuura, Professor)

(5) 研究指導教員が、所属教室以外に別にいる場合

各審査資料のタイトル

『Doctoral Thesis』

『学位論文の要旨』『学位論文の要約』

『学位研究報告書』等

Analysis of the *UGT1A1* gene polymorphism in colorectal cancer

(大腸癌における *UGT1A1* 遺伝子多型の分析)

Taro Yokohama

横浜 太郎

Biochemistry

Yokohama City University Graduate School of Medicine

横浜市立大学 大学院医学研究科 医科学専攻 生化学

(Research Supervisor : Momotaro Yokoichi ,Professor)

福浦先端研究センター

(研究指導教員:横市 桃太郎 教授)

(Doctoral Supervisor: Ichiro Fukuura, Professor)

(指導教員:福浦 一郎 教授)

(6)代行指導教員がいる場合(主任教授不在期間に提出する場合)

各審査資料のタイトル

『Doctoral Thesis』

『学位論文の要旨』『学位論文の要約』

『学位研究報告書』等

Analysis of the *UGT1A1* gene polymorphism in colorectal cancer

(大腸癌における *UGT1A1* 遺伝子多型の分析)

Taro Yokohama

横浜 太郎

Biochemistry

Yokohama City University Graduate School of Medicine

横浜市立大学 大学院医学研究科 医科学専攻 生化学

(Deputy Doctoral Supervisor: Ichiro Fukuura, Professor)

(代行指導教員:福浦 一郎 教授)

(Supervisor: Hanako Kanagawa, Professor, Hepburn University)

へボン大学大学院医学研究科 医療研究センター

(研究指導教員:神奈川 花子 教授)